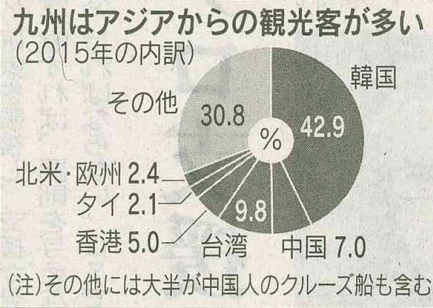
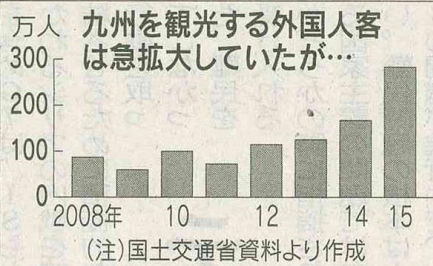


訪日客、4月も最高

日本政府観光局は18日、4月の訪日外国人客数が前年同月に比べて18%増の208万1800人だったと発表した。3月に続いて単月として過去最高を記録した。3ヶ月割増だった1〜3月より伸びは鈍ったものの、アジアからの訪日客が好調だった。九州では熊本地震の影響が出始めている。観光庁は九州で使える旅行券など観光振興策を検討する。

観光庁の田村明比古長官は18日の記者会見で熊本地震に関し「九州以外の地域への影響は出ていない」と強調した。4月はクルーズ船の寄港が増



え、航空会社のキャンペーンも訪日客の拡大を後押しした。中国が27%増と高い伸びを維持し、シンガポールやインドネシア、マレーシアといった東南アジア諸国も2〜3割伸びた。九州は地理的に近い韓国からの訪日客が多く、15年は4割超を占めた。観光庁によると、4月に

熊本地震で九州は低迷 観光庁、振興策を検討

九州を訪れた外国人は全体としては減っていないが、韓国人は前年同月比3割ほど減った。田村長官は「熊本や湯布院は九州観光のへそ。5月も地震の影響が出るのは避けられない」と話す。

外国人に人気がある黒川温泉(熊本県南小国町)では、地震発生後のキャンセル客が約2万4千人に上り、損失総額は現時点で5億3千万円に達した。大分でも大型連休の予約にキャンセルが殺到した。別府のホテル経営者によると「まず海外の団体観光客のキャンセルが入り、続いて国内の個人観光客から問い合わせ

が続いた」という。政府は2020年までに訪日客を4000万人に倍増させる目標をつくったばかりだ。観光庁は「地震を受けて連休している韓国からの直行便が再開する6月以降は、訪日客が少しずつ回復してくる」とみているが、影響を最小限に食い止めるため、月内にも観光振興策をまとめる。

まずは観光客が多い夏場や紅葉の季節に向けてプロモーションを展開し、格安でホテルなどを利用できる旅行券も導入する。熊本城や阿蘇神社など観光資源の復旧も支援していく。